

精米施設が稼働しました！

JA秋田しんせいはこれまで、JA全農あきたパールライス課に精米加工を委託しておりましたが、近年、ふるさと納税の返礼品での人気の高まりや学校給食における地元産米への要望の高まり、無洗米など新しい商品の需要増加などコメの消費が多様化している状況です。

また、新型コロナウイルスの影響で米の需要が減少することが懸念されているため、新たな販路拡大を目指し精米事業を強化することとしました。

当JAの農家さんが丹精込めて育てた「土づくり実証米」の魅力を県内はもちろん、県外も含めたより多くの皆さまに伝えるべく、本荘カントリーエレベーター内の精米設備をリニューアル。令和3年3月6日に運用を始めました。



▲精米機の使用法や袋詰めの方法を確認しました



施設のメリット

①細かい顧客ニーズに対応

量目、パッケージの変更や供給への時間を短縮

②コスト削減につながる

JAで精米することにより運送コスト等を削減

③環境に優しい

無洗米の製造が可能となり、SDGsに貢献できる

目標

①生産者の所得向上に貢献してまいります

高品質な出荷体制を整備することで、新たな出荷先の獲得や需要の掘り起こしにつなげます。

②品質の向上に努めてまいります

選別能力・作業効率の向上により、品質の確保、向上させ、販路の拡大につなげます。

港区小中学校へ土づくり実証米ひとめぼれを届ける！

おいしいお米をお届け！ 港区小中学校へ精米出発

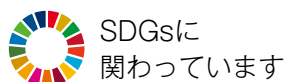
東京都港区教育委員会事務局は、学校給食用の精米を一括購入する事業を行っています。

この度、連携自治体であるにかほ市を通じて、JAなど管内の精米事業者が採用され港区の小中学校へ「土づくり実証米ひとめぼれ」を提供することになりました。

4月16日には、「港区学校給食用精米出発式」を開催。港区立小中学校28校へ契約数量7.3トンのうち、まずは3.6トンの土づくり実証米ひとめぼれを発送しました。県外小中学校への精米供給は今回が初めてです。

小松忠彦組合長は「今回の取り組みが都会、地方の連携が広がる一助になればうれしい」と話しました。

次回は5月中旬に残りの約3.6トンが出発し、港区小中学校の給食に使用されます。



- 12 つくる責任 使う責任：持続可能な消費と生産のパターンを確保する
- 14 海の豊かさを守ろう：海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全する…等
- 15 陸の豊かさを守ろう：陸上生態系の保護、森林の持続、砂漠化への対処、生物多様性損失の阻止を図る…等